

森林環境学習の展開例2

これは、一つの展開例です。学習計画を立てる際に、一部でも参考にいただければありがたいです。

1, 単元を構成する前に

(1) ねらいの明確化

単元を構成する際、まずは「どのようなねらい」とするのかを明確にしましょう。児童の実態や地域の環境(学校周辺の環境)などを考慮し、ねらいに即した計画を立てましょう。

(2) 森林のとらえ方として大切にしたい3つの視点(京都教育大学: 山下宏文教授)

「環境(森林)の中で学ぶ・環境(森林)から学ぶ」「環境(森林)について学ぶ」「環境(森林)のために学ぶ」という3つの視点を大切にしましょう。

森(森林)を体験の場・知る場・関わりの場ととらえましょう。



写真と本文は関係ありません。

2, 単元例(その2: 森林環境学習を課題追求のための体験活動として位置づける場合)

「川(びわこ)と森はともだち～川(びわこ)のはじまりを調べよう～」 総合的な学習の時間: **23時間**

(1) 目標

- ・ 実際に森林に入り、五感をとおして、体全体で「森」を感じたり、「森づくり体験」をしたりすることにより、木や森林に興味・関心を持ち、「きれいで豊かな川(びわこ)」は「豊かな森(森林)」がはぐくんできていることを理解することができる。
- ・ 「学校近くの川」と「源流部(やまのこ施設近く)の川」で見られる生きもの(指標生物)を比較しながら、その違いについて調べたり、「きれいな水」は森(木)が育てていることをつきとめ(調べ)たりすることができる。
- ・ 「豊かな川(びわこ)をはぐくむ木や森(森林)の大切さを学校や保護者、地域の人に伝えることができる。

(2) 目的を持って追求(情報収集)をさせるための取り組み(事前学習)

社会科の学習「水のゆくえ(上水道・下水道)」と関連させて、学校の近くを流れる川の様子を観察し、生きもの(指標生物:水生昆虫)調べ(参考資料5)をする。**4時間**

当日の体験学習のプログラム概要を知らせ、活動の見通しを持たせる。**1時間**

(3) 当日の学習**6時間**(1泊2日)

< 当日のねらい >

間伐・枝打ち・間伐材の玉切り体験(見学)やペットボトルによる「土壌浸透(森林の多面的機能を理解するための)実験」をとおして、整備された豊かな森がしっかりと水を蓄え、浄化していることに気づき、「間伐・枝打ち(森林整備)の大切さ」を実感することができる。

源流部の川で、学校の近くを流れる川と比較しながら、生きもの調べをすることができる。

- ・ 森の中に入り、五感をとおして、体全体で木(森)を感じることができる。
- ・ 間伐・枝打ち(森林整備)体験(見学)をし、間伐・枝打ち(森林整備)の大切さについて体験をとおして理



写真と本文は関係ありません。

解することができる(実感をともなった理解をする)。

- ・ 間伐のできていない森の中に入り、薄暗い「森林環境」を体感することができる(実感をともなった理解をする)。
- ・ 川に入り、川の中から周辺の様子を観察したり、目をつぶって静かに水の流れる音を聴いたり、手の感覚で水温を予想したりしながら、学校の近くを流れる川との違いに気づくことができる。
- ・ 生きもの調べをすることができる。

< 当日の体験学習 >

森林散策

間伐・枝打ち体験や竹林整備作業体験

ペットボトルによる「土壌浸透(森林の多面的機能を理解するための)実験」

レクチャー(「森で働く人」から「森を守るお話」を聞く)

源流部の生きもの(水生昆虫:指標生物)調べ など

(4) 事後学習

学校近くの川と源流部の川の生きもの違い、源流部の生きものの豊かさについてまとめる。2時間

森の土を持ち帰り、運動場の土と比較する「土壌浸透実験」を行ったり、森の土(校庭の落ち葉を使った堆肥)づくりに挑戦したりする。3時間

「豊かな川(びわこ)をはぐくむ木や森(森林)の大切さを学校や保護者、地域の人に伝える発表会を企画し、実施する。4時間

社会科の学習「水のゆくえ(上水道・下水道)」と関連させて、学校の近くの川が、どのように琵琶湖につながっているか調べる(5年生の学習「フローティングスクール」につなげる)。3時間



写真と本文は関係ありません。

* 参考資料

指標生物:水生昆虫